



2023年2月 NO.2

合同会社IアンドS

福岡市中央区大名2-10-1 AI208

TEL092-791-1498 Fax092-791-1641

春の知らせ届く



【太宰府天満宮 飛梅開花】

太宰府天満宮(太宰府市)の本殿前にある神木「飛梅」が1月23日に開花しました。飛梅は九州に左遷された菅原道真を慕って、京の都から一夜で飛んできたと伝えられています。現在、外国からの観光客も訪れ、多くの参拝者でにぎわっています。境内には約6000本の白梅や紅梅があり、2月中旬~3月中旬が見ごろになりそうです。なお、本殿の大規模改修工事は5月からを予定されています。

AI活躍

【盲導犬のように誘導】

視覚障害者向けの誘導ロボット「AIスーツケース」の屋外での実演が行われました。発案者である日本科学未来館(東京都)の館長で、全盲の浅川智恵子さんが企業の協力を得て2017年から開発を進めています。

AIスーツケースは目的地をセットすると、センサーが障害物を回避して進み、ヘッドホンからナビ音声も流れて情報を知らせます。

実演に挑戦した、発案者の浅川さんは「こんなに気軽に駅に行けるのかと感動した」と喜び、「白杖、盲導犬に続く第3のモビリティエイド(移動補助手段)に位置づけていくのが目標だ。」と語りました。

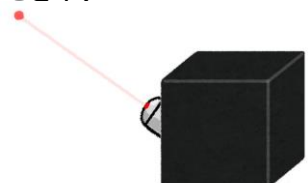


【害虫を撃ち落とす】

AIを活用し、虫の飛行ルートを推測する技術の開発を、国の研究機関が進め、レーザー光を利用した害虫駆除の技術の実用化を目指しています。

現在、蚊のような小さなものをレーザー光の熱で撃ち落とす技術は確立されています。しかし今回これまで困難だった、蛾のような大きな虫を撃ち落とすことに成功しました。

この技術の応用で、様々な害虫を、農薬を使わずに農作物被害を防ぐことや、食糧の安定供給への貢献が期待されています。



歴史発見

【所在不明の日本刀 オーストラリアで発見?】

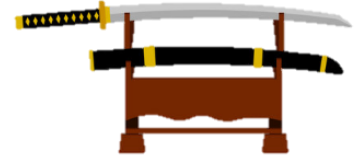
所在不明になっていた、鹿児島県の神宮の刀と特徴が一致する刀がオーストラリアで見つかりました。

刀は旧国宝の「無銘(伝則重)」で、鹿児島神宮に奉納され、戦後GHQによる接收で所在不明となっていました。

オーストラリアの愛刀家の男性は、4年前にオークションサイトで落札した刀と、「行方不明の重要な日本刀一覧」の記事にあったこの刀が似ていることに気づきました。

男性は史料の分析や、来日して省庁に照会するなど調査をし、文科省もおそらく本物だとコメントしています。

男性は、調査の喜びは大きいものだったとし、「生きている間は刀を持っていたい、遺言状には自分の死後に刀が鹿児島神宮に戻ることを確実にするように書いてある」と話しています。



【熊本城跡から出土した鉄刀】

昨年熊本城跡から出土した鉄刀を分析した結果、製作時期を示す象眼銘文が見つかったと発表されました。

文字は「甲子年」とあり、西暦604年製作の可能性が高いとされます。

兵庫県の古墳からも

西暦608年が有力視される「戊辰年」の銘文が入った鉄刀が出土しています。

当時は聖徳太子が活躍した時代にも重なり、

刀剣は中央政府から承認の証として与えられるものとされています。

異なる場所で同じ時期に同じような鉄刀が見つかったことは、当時の社会状況を調査する手がかりになるとされています。



本格的な摘発へ

【半グレ専門部署設置】

拠点を持たず、離合集散を繰り返しながら常習的に暴力や不法行為を続ける通称「半グレ」を本格的に取り締まるため、

福岡県警は専門部署「準暴力団等集中取り締まり本部」を設置しました。

半グレと呼ばれている準暴力団の犯罪行為が悪質で巧妙化しているとして、実態解明や取り締まりの強化をし、

特殊詐欺の摘発や若年層の犯罪捜査などの捜査手法を生かすため、全部門横断的に取り締まる部署にしたもので、全国初の取り組みです。

